

第一支部

第一支部情報

今後の予定

ア. 第3回第一支部勉強会&平成26年度第一支部決算報告

(ア) 開催日時：平成27年3月25日(水) 19:00～20:40

(イ) 開催場所：JCHO 埼玉メディカルセンター 3階会議室

(ウ) 参加費：500円

(エ) 内容：第一支部決算報告

第一支部理事 双木 邦博

I. メーカー講演

「AZE VirtualPlace を用いた心筋灌流画像カラー表示 (仮題)」

株式会社 AZE

II. 技師講演

「当院における冠動脈CT検査 (仮題)」

三愛病院 川島 慶太

「冠動脈MRAの実際 ～1.5Tと3.0Tを使用して～ (仮題)」

三愛病院 大塚 忠義

イ. 第一、二、五支部合同勉強会

(ア) 開催日時：平成27年1月31日(土) 12:45～19:00

(イ) 開催場所：さいたま赤十字病院 5階講堂

(ウ) テーマ：「Dual Energy CT 基礎から臨床」

(エ) 参加費：500円

報告事項

ア. 第2回第一支部勉強会を開催しました

(ア) 開催日時：平成26年10月2日(木) 19:00～20:50

(イ) 開催場所：JCHO 埼玉メディカルセンター 3階会議室

(ウ) 参加人数：39人

(エ) 内容：I. 技師講演

「当院における画像情報連携について」

さいたま市立病院 三橋 則行

II. メーカー講演

「可搬型媒体を用いた病院連携 PDIの基礎～PDIに関する各種問題～」

リパージュジャパン株式会社 杉原 弘恭

「Real Impact for Better Health」

日本マイクロソフト株式会社 遠山 仁啓



さいたま市立病院 三橋氏



リパージュジャパン株式会社 杉原氏



日本マイクロソフト株式会社 遠山氏

イ. 第2回第一支部役員会開催

- (ア) 開催日時：平成26年10月29日（水） 19：00～20：00
- (イ) 開催場所：JCHO 埼玉メディカルセンター 検診センター
- (ウ) 参加人数：6人
- (エ) 内容：健康まつり打合せ
第3回勉強会
来年度勉強会

ウ. 浦和区健康まつりへ参加

- (ア) 開催日時：平成26年11月2日（日） 10：00～16：00
- (イ) 開催場所：浦和コミュニティセンター（浦和駅東口コンナレー10階）
- (ウ) テーマ：「身近な地域で人のつながりを大切に、健康づくりの輪をひろげる。」
- (エ) 主催：浦和区役所保健センター
- (オ) 協働：アシスト浦和21
- (カ) 内容：骨密度測定と医療画像展
- (キ) 測定人数：408人



第二支部

第二支部通信 埼玉県診療放射線技師会 第二支部役員 柴俊幸

循環器 CT セミナー 2014 開催報告

所沢ハートセンター 柴 俊幸

平成 26 年 9 月 13 日、第二支部主催による循環器 CT セミナー 2014 が開催されました。

本セミナーは昨年、心臓 CT セミナー 2013 と銘打ち、埼玉県及び近隣の都道府県に向けて、今心臓 CT で困っていることや明日から持ち帰ることのできる技術を共有しようという目的から始まりました。64 列 CT が汎用機となり始めた近年だからこそ知りたい技術、知識が増えてきていると思います。そのような中、今回も 211 人という多数の方にご参加いただきました。内容は誌面では書ききれないほど充実し、実行委員を引き受けてくださった方をはじめ、座長、講師を務めていただいた先生方、メーカーの方にご尽力いただきましたこと、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

本会のディスカッションももちろん、こういった多数の方に集まっていたいただいた会のお楽しみは、やはり懇親会です。お酒が苦手な方には少々高い参加費となるとは思いますが、セッションや講演内容、または今後の展望について熱く語れる場が懇親会ではないでしょうか。お酒を控えて真面目に話すもよし、お酒の力を借りて熱く語るのもよし、セミナーに関係ない世間話をするにも良い機会だと思います。懇親会でできた横のつながり（県内に限らず）が今後の埼玉県の技術、知識の向上に少なからずお役に立てればと思います。

今後とも第二支部へのご理解、ご協力いただければ幸いです。



勉強会開催報告

第二支部では座長集約をもって勉強会開催報告とさせていただきます。なお、ページ数やレイアウトなどの都合により順番が前後しますことを発表者様、座長様並びに会員の皆様にご理解頂ければ幸いです。

第4回勉強会 整形セッション一般撮影座長集約

防衛医科大学校病院 野瀬 英雄

平成26年度第4回勉強会、テーマ「整形外科領域の撮影技術向上を目指して」の中で、一般撮影では、上尾中央総合病院の仲西一真氏に「教科書に載っていない実践撮影のコツとX線所見のとり方～膝関節編～」について発表して頂きました。

講演内容はまず、膝関節は荷重を受けながら転がり、滑り、回旋といった複雑な動きを行うために、障害を受けやすく、撮影頻度の高い関節のひとつであるということ。そして、変形性膝関節症の多くは内反変形で、両膝だと所謂O脚の状態。その評価は関節間隙を数ミリ単位で計測しているため、正確なポジショニングが要求される撮影であるということをお話して頂きました。次に、変形性膝関節症の計測方法とそのGrade分類についての復習を行い、その後日常で撮影頻度の高い正面、側面、スカイラインの撮影方法について、撮影のコツを発表して頂きました。

具体的に、膝関節の立位荷重位では、様々な荷重のかけ方があり、それぞれの姿勢での負荷の状態とその問題点について教えて頂きました。さらに膝関節側面撮影では、撮影後の画像から関節面のズレの修正方法について、脛骨腓骨の関係と外顆内顆の形状の違いから、外旋に修正すべきか、内旋にすべきか推測することができるということ。スカイライン撮影では、画像上で大腿骨顆間窩面と脛骨粗面が重なる角度が最も関節面を広く描出できる角度でありその角度を実現するためには、脛骨粗面を入射点にして膝蓋骨の前面ラインと後面ラインが平行であることから、入射角度を膝蓋骨の前面ラインと平行にする。そして、撮影後の画像から大腿骨顆間窩面と脛骨粗面の位置関係を確認することによって、入射角度の修正方向を判断することができるということを教えて頂きました。さらに、膝の人工関節術後の画像を用いて、術後撮影の目的とその解剖、所見のとり方を教えて頂きました。

膝関節撮影は、教科書以外に個々の施設で発見し、発展させてきた撮影方法や技術が存在します。今回の講演の中でも私が知らなかった撮影のコツや所見のとり方があり、大変勉強になりました。撮影経験の浅い方や撮影方法に疑問をお持ちの方、撮影技術に手詰まりを感じている方などはこのような機会を利用して、積極的に疑問を投げかけて頂き、解決できればよいと思います。今後もこのような機会を作って頂き、皆さんと撮影方法について活発な議論が展開できることを期待しています。

第4回勉強会 整形セッションCT座長集約

医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 放射線技術科 館林 正樹

本セッションでは、「整形外科領域のX線CTの標準化」と題し、正確なMPR画像の切り出し法をメインテーマに埼玉石心会病院さやま総合クリニック山田技師より講演を頂いた。整形外科領域のCT検査では、主として骨折の精査・骨折型の診断、手術適応の判定、手術支援画像の作成・手術方法の決定、骨癒合・変形などの形態評価等の情報を正確に持った画像が求められる。その中で、MPR画像の標準化は再現性の向上のため必須要項として挙げられる。MPR画像を作成するにあたり、撮影画像の空間分解能

や再構成スライス厚、再構成関数の構成が重要となるが、今回はポイントとして、①空間分解能の劣化を防ぐため on center で撮影する②パーシャルボリューム効果の影響を考慮し適切なスライス厚を選択する③高周波強調関数を用いて画像再構成することが挙げられた。

一般的に MPR 画像は X 線写真を基準とした方向で作成されるが、この方法の難点は再現性の低さである。画像作成を行った技師の主観で切り出された断面であるため、他の技師が同じ断面を作成することは難しい。PACS に画像保存を行っている施設では過去画像の確認が可能だが、スループットの低下は免れない。そこで、基準線・基準面の設定が重要となってくる。基準線・基準面は中間位において目安となるラインで、個人差が少なく、水平断でなるべく直線的な部分がよいとされる。今回は手関節・肩関節・膝関節・足関節・長管骨について基準線と基準面から MPR 画像を作成する手順が紹介された。基準線と基準面から MPR を作成する手順は GuLACTIC にも記載されているが、本講演も GuLACTIC を基準とした作成手順であった。

基準線の設定は撮影部位が多様であっても、解剖学的理由からおおよそ同じポイントに絞られ、反復した作業を何度も行うことで複数の技師が選定した場合の差異は低下する。この結果、施設内での標準化はある程度成される。ただし、通常基準線に設定すべきポイントが骨折していた場合や、アライメントがずれていた場合等のイレギュラーなものに対して、基準をどう設定するかが標準化を考えた際に大きな問題となることが多い。本講演では Colless 骨折を例に、通常基準面が骨折していた場合に、基準面より近位で骨折の影響がない新しい基準面を選定する手法が紹介された。非常に有用であると思う。

骨折の種類や形態は千差万別であり、一つ一つの症例に対して標準化を行うことはむしろ不可能であるとも言える。MPR 画像の標準化は再現性を維持・向上させることが目的であり、これに尽きるとも言える。今日では患者情報の管理として HIS だけではなく RIS や周辺機器の多機能化も目まじく、特に RIS の活用によってイレギュラーな症例に対して作成した MPR の切り出し情報を施設内で共有することが可能である。初めに画像作成を行った技師が RIS 等の検査情報欄に撮影部位や切り出し基準・スライス厚等を記載すれば、スループットの低下を起さず良好な再現性を得ることも可能であり、この作業により施設内での標準化が成されると考えている。

整形外科領域の CT 撮影は議論の余地が多く、難しい分野であることは間違いない。標準化を成すためには検査情報をいかに有効な形で共有できるかが重要であると思う。

以上、座長集約とさせていただきます。

第 4 回勉強会 整形セッション MRI 座長集約

埼玉医科大学総合医療センター 中央放射線部 河原 剛

セッション 2 「整形外科領域の撮影技術向上を目指して」、MRI については三愛病院 菅野勝先生に「股関節 MRI 撮影について～検査の流れ・考え方～」と題し、実際に行われている検査プロトコルの紹介、検査を行う上で必要な股関節の解剖学的構造・病態について詳細且つ分かりやすく講演して頂きました。

はじめに、MRI が多用される股関節の病態・疾患について大腿骨頭壊死、変形性股関節症、関節唇損傷、外傷による骨折等が挙げられ、確定診断、術前評価に広く用いられており、御施設においては股関節の疾患の第一選択は一般撮影であるが、必要に応じて MRI を行うとのことでした。印象的だったのは御施設が整形外科に力を入れており、外傷および転倒による大腿骨頭骨折の急患が他院紹介も含め多く、緊急手術になることもあり、その際にはほぼ全例において MRI 検査を実施しているとのことでした。自施設

においては緊急手術の対象であっても MRI 検査を行ってから手術となることは稀であり、少なくとも私自身経験がありませんでした。しかし、御施設では日々多忙な MRI 検査の中、依頼があることも少なくないそうで、予約の合間に必要なシーケンスを絞り検査を行なっているとのことでした。このような運用を行なえるのは臨床医とのコミュニケーションが密に取られ、それにより検査の必要性について双方でコンセンサスが得られているのだと感じました。

講演の序盤はガイドラインに沿ったポジショニングや主に用いられるシーケンスについて話され、その後は解剖学的構造、血管走行についてと各疾患について、特に大腿骨頭骨折の分類、各骨折における病型（type 分類）について臨床画像を交え詳しくお話して頂きました。結びでは検査に必要な知識を身に付けた上で検査に臨むことが重要であると締めくくられました。御施設では MRI だけでなく、全ての検査において画像所見をレポートとして提出しているとのことをお聞きました。検査技術だけでなく、その画像を読む力も必要となってきます。そのためには今回お話しして頂いた内容を理解し、臨床医が必要な情報をフィードバックできる知識を身に付けていかなくてはならないと強く感じました。

第 5 回勉強会特別セッション座長集約

埼玉県済生会川口総合病院 診療放射線部 土田 拓治

「肩関節撮影法～撮影方法のコツを得る～」として春日部市立病院の工藤年男氏より講演頂いた。最近の放射線画像診断の中心は CT・MRI・US である。そのエビデンスは周知のとおりであり、診療放射線技師の研究テーマも盛んに行われている。それと比較して、一般撮影検査の研究を志す者が減少している印象を受ける。その要因として、診療放射線技師の教育体制や環境によるものと考えられる。よって工藤講師による本講演は一般撮影技術が他モダリティと同等、それ以上の魅力がある事を再認識するきっかけとなった。

一般撮影検査は、大概の施設において基本的業務である。ただし、各施設によって最適な撮影法が存在し、職場の先輩など教育者の質に依存する。次に、臨床経験の必要性である。得られた知識を被写体ごとに応用できるからである。そして、画像再現性を得るために、その撮影法が適切かどうかの検証・研究をできる環境の構築が必要であり、職場の同僚や研究会などを通じてディスカッションすることが大切である。特にメルクマールによる撮影技術の構築は再現性を得るためのコツ、つまり撮影が上手くなるコツとして、体表面の基準線・基準面の把握、機能解剖学に基づいた ROM（range of motion）の関節可動域、良肢位（関節が固定された場合、日常生活にもっとも支障が少ない肢位のこと）の理解する事が必要と述べられた。

今回は、肩関節撮影を中心とした内容であった。撮影技術習得を行う上で参考とする著書の中には活字で理解が困難なものもあるが、良肢位を取り入れ、撮影法の臨床的意義を考えた撮影法について、3D-CT を用いてメルクマールとの関係を教示して頂いた事で、より理解が深まった。

最後に、一般撮影領域における環境変化はアナログからデジタルに移行され、観察媒体もフィルム・シャウカステンからモニターへと急速に進んでいる。このことは画像情報が膨大となった現在への恩恵は計り知れないが、それらを扱う診療放射線技師の撮影線量と画質（特に画像濃度・輝度）への意識が loose になっているのも事実である。しかし、一般撮影技術にとって特に大切なのは、再現性と必要な診断情報を描出することであり、その原点はポジショニングであると考えられる。諸先輩方が培った撮影技術を論理的に理解し、継承していく事は、再撮影をしない撮影法の研究を盛り上げ、医療被ばく低減につながる。

所沢市保健センター健康まつりに参加して

第二支部 中村 友香

平成 26 年 11 月 9 日（日）、所沢市保健センターにおいて第 27 回保健センター健康まつりが開催されました。当日は雨の予報でしたがなんとか曇り、お子さんから働き盛りのお父さん、それから元気な高齢者まで幅広い世代の方にご来場いただきました。その中で、埼玉県診療放射線技師会第二支部として医用画像展を開催いたしました。

第二支部は公益活動の一環として毎年参加しています。"あなたのための医用画像展"としてパネル展示、骨密度測定、子供用サッカーゲームを行いました。

来場者は骨密度測定者 376 人、健康まつりの来場者数 1,194 人と前年より測定者・来場者数とも増えて大盛況でした。

これからもこのような活動を通じて我々診療放射線技師の職種・役割を知っていただき、多くの方の健康維持のお手伝いできればいいなと思いました。



【開会式の様子】



実行委員	
大西 圭一	所沢ハートセンター
山下 隆行	豊岡第一病院
山岸 洋大	明生病院
山田 幸一	埼玉石心会病院
中村 友香	所沢市市民医療センター
千田 俊秀	所沢市保健センター

第三支部

第三支部だより

第三支部理事 渡部 進一

(1) 平成 26 年度 勉強会予定

- 第 3 回 第三支部勉強会 (平成 27 年 3 月 開催予定)
- 平成 26 年度 第三支部総会 (平成 27 年 3 月 開催予定)

第三地区会

(2) 平成 26 年度 第 2 回勉強会 開催報告

日 時： 平成 26 年 12 月 10 日 (木) 19 時 00 分～

場 所： 埼玉医科大学総合医療センター 5 階 小講堂
〒350-0844 埼玉県川越市鴨田辻道町 1981 番地

内 容： メーカー講演

- 「新しい肝動脈塞栓材 ディーシービーズについて」

エーザイ株式会社 統合マーケティング部 柳広一郎

技師講演

- 「診療技師法改正について」

埼玉医科大学病院 堀切 直也 藤田 綾乃

- 「診療放射線技師に必要な統計学の基礎知識」

埼玉医科大学病院 高橋 将史

(3) 第 28 回 川越市健康まつり 開催報告

日 時： 平成 26 年 11 月 2 日 (日) 10 時 00 分～14 時 00 分

場 所： 川越市総合保健センター 埼玉県川越市小ヶ谷 817-1

内 容： あなたのための医療画像展



(4) 第三地区 ボーリング大会 開催報告

日 時： 平成 26 年 10 月 31 日 (金) 19 時 00 分～20 時 30 分

場 所： 川越市ボウリングセンター

参加数： 42 人

第四支部



今年も（公社）埼玉県診療放射線技師会第四支部役員一同いろいろな企画で盛り上げたいと思いますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。



「第四支部役員連絡先」

深谷赤十字病院	齋藤 幸夫	TEL 048-571-1511
熊谷総合病院	清水 浩和	TEL 048-521-0065
羽生総合病院	大野 渉	TEL 048-562-3000
行田中央総合病院	萩原 貴之	TEL 048-553-2000
東松山市立市民病院	新井 偉生	TEL 0493-24-6111
秩父市立病院	横田 文克	TEL 0494-23-0611
小川赤十字病院	高井 太市	TEL 0493-72-2333

深谷市福祉健康まつり 参加報告

第四支部 高井 太市

平成 26 年 10 月 26 日(日) 深谷ビクタートルにて深谷市福祉健康まつりが行われました。埼玉県診療放射線技師会第四支部も公益活動の一環として毎年参加しております。昨年は台風の影響により中止となりましたが、今年は良い天気恵まれ、会場には多くの方々に来場していただきました。

第四支部では毎年恒例となっている「パネル展示」「骨密度測定」「ヨーヨー釣り」に加え、コニカミノルタヘルスケア(株)様のご協力で「ワークステーション展示」「血中酸素濃度測定」を行いました。来場者数は骨密度測定は約 300 人、ヨーヨー釣りは約 100 人、医療画像展には約 80 人と例年同様、沢山の方に来ていただくことができました。

これからも第四支部では継続して福祉健康祭りに参加し、このような活動を通じて診療放射線技師という職業や技師会の活動について知っていただけるように努力していきたいと思っております。実行委員のみなさん、ご協力いただいたメーカーの方、お疲れ様でした。



骨密度測定



パネル展示



ヨーヨー釣り



ワークステーション展示



深谷市福祉健康まつり実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
斎藤 幸夫	深谷赤十字病院	長谷川 英治	羽生総合病院
清水 浩和	熊谷総合病院	山田 伸司	小川赤十字病院
大野 渉	羽生総合病院	小林 茂幸	深谷赤十字病院
新井 偉生	東松山市民病院	笠井 久幸	深谷赤十字病院
横田 文克	秩父市立病院	成田 麻美	深谷赤十字病院
高井 太市	小川赤十字病院	柏瀬 義倫	深谷赤十字病院
		亀山 枝里	熊谷総合病院

協力メーカー

コニカミノルタヘルスケア株式会社 櫻井様

第四支部忘年会開催報告

第四支部 高井 太市・齋藤 幸夫

平成 26 年 12 月 5 日（金）午後 7 時より、熊谷市のキングアンバサダーホテル熊谷にて毎年恒例である第四支部忘年会が開催されました。

当日は会員・賛助会員合わせて約 80 人と多くの方々に参加していただきました。会場全体の雰囲気は終始にぎやかで、出席された皆様の日頃の慰労や情報交換を含め、親睦を深めることができました。また今年より始めた新企画、新入会員の挨拶を交えた施設ごとの紹介を行っていただきました。どの施設の紹介もユニークで、会場の盛り上がりもより大きなものとなりました。

最後になりますが、参加していただいた会員・賛助会員の皆様に心よりお礼申し上げます。



第四支部の温故知新です



施設紹介



東松山市民病院の皆様



熊谷総合病院の皆様



佐々木病院の皆様



羽生総合病院の皆様



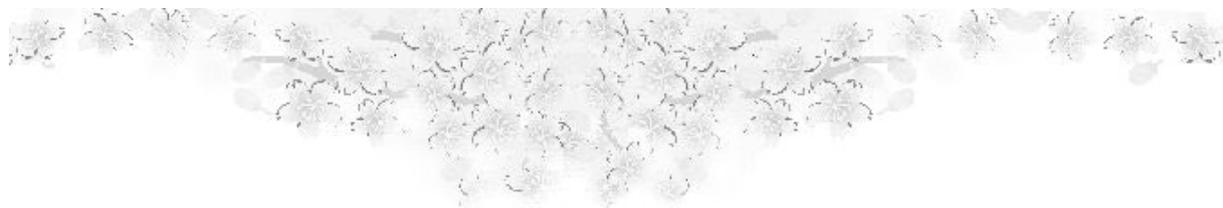
秩父病院の皆様



秩父市立病院の皆様

全ての施設紹介ができない事についてお詫び申し上げます。
また今回紹介されなかった施設は、来年度優先して掲載しますのでお許しください。

第五支部



第五支部

情報交換会

場所は春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

1月22日 19:00～(予定)

2月26日 19:00～(予定)

詳しくはSARTのHP等でご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

皆様とお話ができるような企画を考えております。

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願いいたします。



第五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)



情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

支部の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

下記でもご案内をしております。

<http://sart-daigoshibu.jimdo.com/>

第六支部

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言 藤巻 武義
2. 彩の国いきいきフェスティバル報告
3. 平成 26 年度 忘年会報告

巻頭言

震災と魚

上尾中央総合病院放射線技術科
藤巻 武義

私の趣味は釣りで川や湖、海など季節ごとに様々な場所へ出掛けています。東日本大震災後にも茨城県の霞ヶ浦へ出掛けの際、河川敷の地面も所々に地割れで立ち入り禁止になっている箇所があり改めて震災を実感したのを覚えています。それ以来というものの、ニュースを見ていて漁業関連、そしてそれが震災に関連があるものとなればやはり気になり見えています。2011年秋からワカサギの放射性物質検査についてもニュースでよく取り上げられていました。福島県から離れた栃木県や群馬県などの湖にいるワカサギについても検査の対象になり釣りを禁止にした湖や持ち帰りの自粛、および出荷禁止など今でも様々な対応が取られているのが現状のようです。

また9月下旬にこんな記事が取り上げられていました。内容は「東日本大震災の影響により今年度のサケ遡上減少の可能性」というものです。最初は震災とサケの遡上にどのような関係があるのか見当も付きませんでした。しかし、記事を読み進めると震災時に津波で河川が氾濫し、サケの稚魚を繁殖させている養魚場が被害に遭い稚魚放流を行えない地域があったそうです。そこで改めてサケの習性を調べてみると、サケは川で生まれ（放流され）稚魚へ成長すると海に出ます。その後、ベーリング海、アラスカ湾を回遊して約4年後に産卵のために再び産まれた川へ戻り、産卵後に一生を終えるそうです。東日本大震災の年に放流した鮭の多くが回帰する年、それが今年度になるという経緯から今回の記事が取り上げられていました。まさかこのような形で震災の影響が出ているとは全く想像もしていませんでした。東日本大震災からもうすぐ4年。これら以外にもまだまだ私が知らない震災の影響があると思います。全てが元通りにはならなくても、少しでも以前に近づくようにと願っています。

彩の国いきいきフェスティバル報告

さいたま北部医療センター 放射線科
竹内 信行

平成 26 年 11 月 3 日、埼玉県民活動総合センター(伊奈町)で『彩の国いきいきフェスティバル』が開催されました。約 80 もの出展出演団体が参加した中で、私たちは骨密度測定やパネル展示(放射線医療解説)、被ばく相談のブースを設けました。

私たちの展示に来て頂いた方の多くは骨密度測定(集計 180 人)が目的で、業務的に慣れない上に人数も多く戸惑う事ばかりでした。一方、被ばく相談を受けたいといった方はいませんでしたが、パネルの内容を質問され説明する事が度々ありました。当たり障りのない説明はできても分かりやすく説明はできなかったのが来年の課題にしようと思いました。

その他コバトンやアルディ、ローズちゃんなどのゆるキャラやマスコットが子供達に人気で写真を撮るのに行列ができるほどで、思わず自分もコバトンの横で写真を撮ってしまいました(いい歳して……)。

最後に、前日からの準備や当日担当した第六支部役員のみなさん、お手伝いで来て頂いたみなさん、貴重な祝日の日にお疲れ様でした

忘年会報告



去る 11 月 27 日(木) に平成 26 年度第六地区忘年会が、ラ・ヴォーリアマッタ ルミネ大宮店にて行われました。ご多忙の中、42 人の会員が参加してくださり、盛大な会となりました。参加してくださった会員の皆様ありがとうございました。

忘年会に参加して 埼玉県立小児医療センター 桂田 夏帆

平成 26 年 11 月 27 日(木) ラ・ヴォーリアマッタ ルミネ 大宮店にて第六支部忘年会が行われました。参加者数 42 人の盛大な会になり、支部の勉強会ではなかなか話すことの出来ない他施設の方々とも交流を持つことが出来たので、とても有意義な時間となりました。これからも、定例会や勉強会に参加していき技術向上に努めていきたいと思えます。

最後に、このような会を企画して下さった方々に感謝申し上げます。

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言 館林 正樹
2. 平成 26 年度 第 2 回定期講習会報告
3. 平成 26 年度 総会および第 3 回定期講習会案内

巻頭言

仕事をしないおじさん

上尾中央総合病院放射線技術科
館林 正樹

最近、ネットニュースで「仕事をしないおじさんにならないために」というような記事を見た。どうやら日本には高額な給料だけ貰って仕事をしないおじさんが沢山いるらしい。これが真実ならば、多くの人が羨ましく感じるのではないだろうか。やや記憶が薄れているが、記事の内容は、スキルアップを目指し、如何にやりがいをもって長く仕事ができることが素晴らしいか、というような内容を説いていたと思う。私はこの記事を読んでふと疑問が浮かんだ。「仕事をしないおじさん」は「人より働いてきたから仕事をしないおじさんになった」のではないだろうか。それが自分の行動と労働に対する対価として手に入れた地位であったとしたら、誰かに批判されるべきことなのだろうか。そもそも、海外では 50 歳を仕事の引退年齢と考える国もあるらしい。早い段階で多くの蓄財をし、残りの人生を謳歌するという考え方にに基づくそうだ。

やりがいをもって働き続けることが美德なのかと問われれば、ノーと断ぜられない自分があるが、是か非を問うのは少し違うのではないかと思う。目に見える地位だけが全てではないし、目に見える実績だけが積み重なるわけでもない。仕事をしないおじさん全てが否定される社会にはなって欲しくないな、と感じた。

第 2 回定期講習会報告

指扇病院 放射線科
藤川真帆

平成 26 年 10 月 23 日に、東大宮総合病院にて「症状と検査画像から病気を読もう」というテーマで行われた講習会に参加させていただきました。

私は、ここ半年の間に一般撮影から CT 検査を担当するようになり、疾患から病状や血液データ、主訴を含め、まだまだ学ぶことがたくさんあります。その中で今回の講習会テーマは私にとってとても重要な内容であり、実際の症例画像と共に解説をしてくださったため、とてもわかりやすく理解することができました。

《テーマ1》では、東芝メディカルシステムズの今泉裕之氏が非造影 MRA についてご講演してくださいました。私はまだ MRI の使用経験がなく理解が追いつきませんでしたでしたが、これら様々な撮像方法が存在する中、今回ご説明して下さった Time Slip 法や FSBB, HOP-MRA, FS-FBI といった撮像方法学び、今後の MRI 検査に生かしていきたいと思いました。

《テーマ2》症例1は AMG 上尾中央総合病院 吉澤英範氏が頭部疾患領域についてご講演してくださいました。脳卒中について主訴から出血及び梗塞の判断や、Early CT sign の見方をお話してくださいました。Early CT sign は自分で勉強していく中、画像所見としての印象が薄く、実際症例に遭遇した際に読影できる自信がありませんでしたが、今回読影ポイントを丁寧にご説明して下さり大変参考になりました。また脳梗塞の治療である t-PA 治療の適応は発症後 4.5 時間以内であり、速やかな診断・処置につながるよう考えながら今後検査を行っていきたいと思いました。

症例2は AMG 東大宮総合病院 田上陽菜氏が胸部疾患領域についてご講演してくださいました。この講習会の数日前に肺梗塞+下肢静脈血栓症の疑いで胸部～下肢の造影 CT 検査を行なった経験もあり、とても興味深く聞かせていただきました。

講習会后、当院に戻りその患者様の血液データを確認したところ、お話して下さった通り D ダイマーと血中 FDP が上昇していました。更に下肢静脈血栓症は左側に多いとあったが当院の症例も左側に認められ、知識の重要性を改めて感じました。

症例3は大宮中央総合病院 斎藤洋平氏が腹部疾患領域についてご講演してくださいました。虫垂炎について貴重な症例を用いご説明して下さり、疾患の特異的画像所見や MPR 作成方法など多くの知識を学ぶことができました。今までは MPR も Coronal 画像を作成していただけていたのですが、虫垂の走行に合わせた画像作成を行うことで拡張や炎症性変化を観察しやすい画像を作成することができました。

検査を行うにあたり先入観にとらわれるということは避けなければなりません。頭の片隅に「あの疾患もあるかもしれない」と何か検討をつけて検査を行うことで患者様にとってより有意義な検査を受けていただけたと思います。より多くの知識を学び、撮影だけでなく読影能力も身に付けた技師に近づける努力をしようと思います。

今回の講習会を通して、どのような検査においても技術や知識なくして最適な検査を提供することはできないということを改めて感じました。ご講演してくださいました講師の皆様には深く感謝申し上げます。